様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	言語系コース（国語）	記載責任者	余郷　裕次

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し，達成目標を設定するとともに，どのような具体的方策を立てて，目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1．目標・計画

平成18年度入学生19名（95%）から，19年度17名（85%），20年度16名（80%），21年度11名（55%）と減少傾向であったが，積極的な大学訪問による広報活動によって，22年度14名（70%），23年度入学予定者は13名（65%）と，なんとか減少傾向に歯止めをかけることができたように思われる。今後も現職教員の派遣，内部進学者の増が見込めないなか，次のような活動を通して，定員充足率の回復を目指したい。
〇本学大学院への入学実績のある大学を訪問し，説明会などを実施する。
〇コースのウェブページを活用し，本コースの広報活動を行う。
〇コース所属教員の知人や，卒業・修了生のネットワークを通して，大学院入学を勧誘する。

2．点検・評価

〇コース所属教員が，7月に松山東雲女子大学，10月に福岡教育大学・鹿児島国際大学，11月に高知大学を訪問し，本学大学院の説明会を開いた。
〇本コースのウェブページは、平成23年度中に15回の更新を行い，学内外における学生・院生の活躍を広く発信した。
〇コース所属教員が，学会やその他の機会に，知人や卒業生・修了生のネットワークを通して，大学院への入学を勧誘した。

上記の活動の結果，平成24年度大学院入学者は，17名（85%）まで回復した。

Ⅰ－2．学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには，常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し，本年度どのような学生支援の取り組みを行うか，具体的な方策を示して欲しい。

1．目標・計画

年度初めに学年別オリエンテーションを行い，修学および就職に関する心構えや，学習方法などについて指導している。また，教育現場の実践に生きる内容を精選して授業内容に盛り込んでいるほか，教員採用試験対策などの就職支援活動も積極的に実施してきた。これらの取り組みによって，大きな成果を上げてきたと自負している。
本年度も，これまで通りの方針で学生支援活動を行うほか，大学院生の就職支援活動を充実させる。

2. 点検・評価

年度初めの学年別オリエンテーションを実施したほか，各教員が就職支援行事に協力するとともに，個別の支援活動を行った。特に大学院生に対しては，模擬授業・集団討論・小論文対策など，重点的に指導した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1. 目標・計画

国語コースの学生が，有意義で実りある学生生活を営むことができるように，コース所属教員全員が連携して問題解決にあたる。上記，修学・就職支援の他に次のような支援を行う。
〇教員と学生の間で，有意義なコミュニケーションを図り，良好な人間関係を構築する。
〇学生の生活上の問題や悩みに対して，学生の人権に配慮しつつその解決にあたる。
〇学習環境の向上を図る。本年度は，院生研究室の耐震化を中心に取り組む。

2. 点検・評価

〇コース教員全員が協同して学生・院生の学修や生活の支援・指導にあたるとともに，教員と学生の間できわめて良好な人間関係を構築することができた。
〇こうした支援・指導を積極的に行った結果，学部卒業生13名のうち，正規採用8名（うち1名は採用延期制度を用いて本学大学院に進学），本学大学院進学4名，臨時採用1名という進路実績となり，進学者を除く教員就職率89%であった。また，現職教員と留学生を除く大学院修了生5名については，1名が正規採用，1名が期限付採用となり，教員就職率は40%であった。
〇コース予算で院生研究室の書架を連結型書架に変え，耐震化を施した。

Ⅱ－2．研究

1. 目標・計画

国語科教育学・日本語教育学を構成する専門的各分野の先導的な研究を推進するために，次のような活動を行う。
〇第26回鳴門教育大学国語教育学会を開催し，機関誌『語文と教育』第25号を刊行する。
〇国語コース所属の教員それぞれが，科学研究費補助金を申請する。また，すでに交付を受けた教員　は，その課題の研究を推進する。
〇先導的大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域の構成案」に関する授業　公開を行い，研究を推進する。

2. 点検・評価

〇第26回鳴門教育大学国語教育学会を，本学B105教室で開催した（平成23年8月24日，研究発表7名）。また，6本の論考を収めた『語文と教育』25号を刊行した（8月30日）。
〇平成24年度科学研究費補助金について，研究代表者として3件，研究分担者として2件の計5件の課題を新規に申請した。また，平成23年度は，研究代表者として5件，研究分担者として6件の研究を推進した。
〇先導的大学改革推進委託事業「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」について，「国語科内容学」に関する授業公開と研究検討会を実施した（5月12日）。また，研究成果報告書を共同執筆した（9月16日発行）。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

○コース所属教員のそれぞれが，各種委員会やワーキンググループの委員として，当該委員会の会議に出席し，その職務を積極的に遂行する。
○教員免許状更新講習（選択領域）の開講，公開講座の開催などを積極的に行う。
○先導的大学改革推進委託事業などの全学的な取り組みの委員として，その遂行に貢献する。

2．点検・評価

○文部科学省の先導的大学改革推進委託事業及び教育支援人材認証協会の事業について，事業が円滑に進行し成果をあげられるように協力し，コースの教員が，認証講座「こどもサポーター（読み聞かせ）」を担当した。
○コース所属の教員それぞれが，各種委員会やワーキンググループの委員として当該の会議に出席し，その職務を積極的に遂行した。
○教員免許状更新講習（選択領域）において，コース所属教員が，「絵本とその読み聞かせの教育的効果」，「子どもの発達段階に応じる音読・朗読と絵本の読み聞かせ」，「国語科教育におけるリテラシーのとらえ方」を開講した。また公開講座「知ってるようで知らないことばの世界」を開催した。さらに，徳島県・大学等連携による教員研修を複数のコース所属教員が担当し，コース　として円滑な大学運営に協力した。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

○大学教員と附属学校園教員との連携体制を維持・発展させるために，学部・附属国語科連絡協議会を開催し，教育・研究に関する意見交換を積極的に行う。
○各地域の教育機関や各種校園との交流を図り，研修や公開講座などの事業に参画する。
○「アフガニスタン教師教育強化プロジェクト」などの国際協力事業に貢献する。
○協定校など，海外の大学からの留学生を受け入れ，交流を図る。

2．点検・評価

○平成23年5月と平成24年1月に学部・附属国語科連絡協議会を開催し，附属学校との研究協力活動を発展させた。また，附属中学校の授業（「選択国語2年」）を附属中学校の教員と共同で担当した。
○地域の教育機関や各種校園との交流を図り，コース所属教員が県内において，50回以上の各種研修や公開講座などの事業を担当した。
○コース所属教員が，「アフガニスタン教師教育強化プロジェクト」「アフガニスタン識字教育強化プロジェクト」に参加し，業務を遂行した。また，本邦研修「アフガニスタン教授法改善コース」，国別研修「初等理数科授業改善コース」の実施に協力した。
○コースの学生2名が，ピュジェットサウンド大学（大学間交流協定締結校）とミドルテネシー州立大学とで共同で実施しているフレンドシップ・プログラムに参加し，テネシー州マーフリーズの小学校で日本語授業を実施した。これにより，参加学生は教職への意欲と関心を大いに高めた。
○フレンドシップ・プログラムに参加した学生による学内写真展の実施をコース所属教員が支援した。これにより，国際理解・国際交流の意識を全学的に広めることが出来た。
○大学間交流協定締結校である北京師範大学，青島大学，シーナカリンウィロート大学，コンケン大学から9名（大学院生1名，学部生8名）の短期留学生（特別聴講学生）を受け入れ，学生間の交流を図った。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

○ 教育支援人材認証協会の事業の推進について，コース所属教員が認定評価委員をつとめるなど，中核的な役割を果たした。
○「アフガニスタン識字教育強化プロジェクトフェーズ２」等の業務遂行，コース所属学生のフレンドシップ・プログラム参加など，教員・学生が国際交流事業に積極的に参画し，コースとしてもこれを積極的に支援した。
○大学間交流協定締結校からの学生を積極的に受け入れ（大学院生１名，学部生８名），学生間の交流をはかった。